

市立岩園幼稚園における3歳児保育の試験的実施検証報告書

令和4年8月

芦屋市教育委員会

目次

1. 3歳児保育試験的実施検証の趣旨	1
2. 検証期間	1
3. 実施体制	1
4. 検証内容	1
5. これまでの経過	3
参考 市立岩園幼稚園3歳児保育検証「教育・保育の内容について」	5
1 3歳児保育の実施に向けた取組	6
(1) カリキュラムの作成	
(2) 3歳児保育の取組とカリキュラムの見直し	
(3) 令和4年度のカリキュラムと今後の活用	
2 幼児の心身の育ち	11
(1) 3歳児の入園当初と3学期末との比較	
(2) 3歳児保育（進級児）と2年保育（新入児）との比較	
(3) 令和3年度の4歳児と令和4年度の新入4歳児（2年保育児）との比較	
(4) 4歳児、5歳児の育ちへの影響	
3 保護者アンケートの結果	16
(1) 令和3年度末アンケートより	
4 市内の教育・保育施設との連携	20
5 特別支援教育の取組	21
6 3歳児保育の試験的実施を通して	21

1. 3歳児保育試験的実施検証の趣旨

教育委員会では、これまで市長部局とともに喫緊の課題であった待機児童解消と将来の少子化を見据え、すべての就学前の子どもたちにとって最善の利益につながるよう、平成29年度から「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」をオール芦屋で取り組んできました。

そのような中、令和元年8月2日の総合教育会議において、いとう市長より市立幼稚園1園での3歳児保育の試験的実施の提言を受け、教育委員会では、これまでの「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」を踏まえ、慎重に協議、検討を重ね、令和3年4月から市立岩園幼稚園で3歳児保育を試験的に実施することを決定しました。

これまでの間には、「芦屋市立幼稚園・保育所のあり方」の整備が着実に進むとともに、令和元年10月からは「幼児教育・保育の無償化」がスタートし、就学前の子どもたちの就園先にも変化が見られるなか、令和3年4月から試験的実施を開始しました。

試験的実施では、何よりも幼児の心身の育ちを第一に考え、教育課程の編成、教育内容、指導方法において3歳児の発達を助長させるものであったかを常に考え、適宜、修正を加えながら取り組み、検証においてはそれらの取り組みを基に結果を取りまとめ、また、市立幼稚園での3歳児保育に対するニーズを分析しました。

2. 検証期間

令和3年4月1日から令和4年7月19日（1学期終了まで）

3. 実施体制

- (1) 学級編成：1クラス
- (2) 定員：25人

4. 検証内容

(1) 3歳児保育に対するニーズについて

① 岩園幼稚園 応募人数：定員25名

- ・令和2年10月募集時点 44名 → 令和3年度入園 25名
- ・令和3年10月募集時点 21名 → 令和4年度入園 23名

② 市立認定こども園 3歳児園児数（1号）応募人数

定員：精道20名、西藏30名

- ・令和2年10月募集時点 精道34名 → 令和3年度入園 20名
西藏43名 → 令和3年度入園 30名
- ・令和3年10月募集時点 精道20名 → 令和4年度入園 18名
西藏31名 → 令和4年度入園 27名

③ 3歳児保育に対するニーズの分析について

初年度においては、定員を超える応募があり抽選を行いました。2年目は定員内の応募数となりました。

2年目に応募数が減少した要因としては、前年度の状況から抽選を敬遠されたことや幼児教育・保育の無償化により他園を選択されたことのほか、児童数の減少などの要因が考えられます。

しかしながら、現在の岩園幼稚園圏域の児童数や周辺の就学前施設の状況、幼児教育・保育の無償化等を総合的に勘案すると、試験的实施においては保育ニーズの高まりや多様な選択肢があるなかにあっても、市立幼稚園の3歳児保育のニーズを一定満たした結果と言えます。

(2) 教育・保育の内容について

3歳児保育の試験的实施にあたり、3歳児4月から5歳児3月までをI期から15期までに分けてカリキュラムを作成し、実践から見えた課題に対応できるよう、適宜、見直しを加えながら取り組んできました。

このカリキュラムの作成により、3歳児の援助や環境構成を考えることに止まらず、4歳児、5歳児にとっても、発達段階に応じたものとなっているか、改めて園全体の環境構成を見直すことにつながりました。

3歳児カリキュラムは、他の市立幼稚園の4歳児、5歳児の保育や、3歳児親子ひろば「さんさんひろば」などにも広げ、活用していきたいと考えています。

幼児の心身の育ちでは、友達との関わりから相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えようとする力が大きく伸びるなど3歳児の1年間の成長に加えて、今年度には新たに新入児が同じクラスに入ることで、新入児のお手本になりながら、一緒にルールを守ったり、協同して課題に取り組んでいました。

4歳児、5歳児も、3歳児がいることで4歳児は3歳児には優しく接し、5歳児には甘え、5歳児は3歳児と4歳児に対して、それぞれ出来るところは見守りながら、出来ないところは手伝うなどの姿が見られました。

このように3歳児保育の試験的实施では、3歳児の成長のみならず、4歳児、5歳児にも波及し、環境構成を4歳児、5歳児でも見直すきっかけにもなるなど、園全体の教育の質の向上につながったと考えています。

また、市立幼稚園、認定こども園、保育所では、公開研究会や参観を通じて意見交換を行い、職員は多くの気づきを得ました。また、私立の幼稚園、認定こども園、保育園も参加した研修会も開催し、同じテーマで一緒に学ぶことができました。

市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられます。岩園幼稚園の3歳児保育の実践で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供が

できるよう、市立幼稚園が幼児教育の中核となり、けん引していかなければならぬと認識しています。

(市立岩園幼稚園3歳児保育検証「教育・保育の内容について」: P. 5参照)

5. これまでの経過

□令和元年度

- 令和元年 6月11日 いとうまい市長就任
- 令和元年 8月 2日 総合教育会議
市長より市立幼稚園1園で試験的実施の検討を依頼される。
- 令和元年 8月 2日 教育委員会(第8回定例会)
「市立幼稚園での3年保育の実施について」を審議
3年保育を幼稚園1園において令和3年4月1日から試験的に実施することを決定。
どの幼稚園で、何人規模で実施するかについて事務局で資料を作成し、後日協議。
- 令和元年 8月26日 教育委員会(第10回臨時会)
「市立幼稚園での3年保育の実施について」を審議し、以下を決定。
・令和3年4月1日開始(令和2年10月園児募集予定)
・実施園 岩園幼稚園
・学級編制 1クラス
・定員 25人定員
- 令和元年 9月 4日 民生文教常任委員会・所管事務調査にて報告

□令和2年度

- 令和2年10月 1日 令和3年度入園募集開始(10/8締め切り、10/15抽選)
- 令和2年10月30日 総合教育会議
令和3年度入園募集の応募状況等を報告

□令和3年度

- 令和3年 4月 1日 岩園幼稚園での3歳児保育の試験的実施開始
- 令和3年10月 1日 令和4年度入園募集開始
- 令和4年 3月17日 3歳児保育報告会

□令和4年度

- 令和4年 7月28日 教育委員会 試験的実施検証報告書(原案)について審議
- 令和4年 8月25日 総合教育会議 試験的実施検証の報告について
教育委員会 試験的実施検証報告の結果について
- 令和4年 8月31日 民生文教常任委員会・所管事務調査にて報告



市立岩園幼稚園 3 歳児保育検証
「教育・保育の内容について」

1 3歳児保育の実施に向けた取組

(1) カリキュラムの作成

カリキュラム作成のポイント

- ・ 3歳児4月から5歳児3月までを、I期から15期までに分けて、連続した36カ月カリキュラムを作成する。
- ・ 個の成長と集団としての育ちが図られるよう、目標を集団と個人で考える。
- ・ 地域や家庭で子ども同士が交わる機会が少なくなっていることを受けて、幼稚園では、同年齢や異年齢の関わりを大切にする。
- ・ 基本的な生活習慣（持ち物の始末・片付け・排泄等）は、個人差が大きいことを踏まえ、自分でしようとする気持ちを大切に援助する。
- ・ 自然との関わりや実体験を大切に、自ら遊びたいと思うような環境構成を工夫する。
- ・ 3歳児が安心して遊べるように、保育室前に3歳児専用砂場を配置し、3歳児の遊ぶ空間を作る。

(2) 3歳児保育の取組とカリキュラムの見直し

① 実践から見えてきた課題

<1学期の目標>

I期(4月～5月) 集団:先生や園に親しみをもち、安心して過ごす

個人:先生や友達との出会いを楽しむ

II期(6月～8月) 集団:先生や友達に親しみ、安心して過ごす

個人:幼稚園の生活の仕方に慣れ、園生活の楽しさを感じる

- ・ 登園後、自分の荷物の整理や着替えなど身の回りのことを終えて外に出るまでに時間がかかり、すぐに片付けの時間になってしまい、3歳児は存分に遊ぶことができない。(片付けの時間を4歳児、5歳児と同じにしている。)身の回りの始末や着替えることに疲れてしまい、生活の流れが途切れる。
- ・ 約半数がオムツをしているので、トイレに行きたがらず、みんなでトイレに行くことができない。濡れていても黙っているのが、個別対応になる。
- ・ 外遊びに誘っても部屋から出てこない子や、みんなに絵本を読もうとしても、前に出てきて立ったまま座ろうとしない子がいる。興味・関心において、個人差が大きい。

- ・ テーマを決めて絵を描こうとしても、テーマを意識するのではなく絵の具を使う楽しさへと変わっている。テーマに沿って描くことが、カリキュラムとのずれを感じる。
- ・ 好きな遊びの後、保育室に入って直ぐに律動などを始めようとする、疲れもあり教師のところに来て甘える幼児がいる。「静」の時間をどうつくるかが、課題である。

環境・援助の見直し

ア 個々に寄り添う

- ・ 登園後の、身の回りのことについて、4歳児のように全てできることを求めず、自分でしようとする気持ちを認めながら、少しずつできることを増やしていく。
- ・ 好きな遊びを、3歳児は長く取り、ゆったりとした時間の中で、それぞれが満足するまで遊べるようにする。また片付けも、早く片付けさせようとするのではなく、それぞれが納得して片付けられるようにする。
- ・ 保護者に呼び掛け、できるだけオムツではなくパンツにしてもらおう。失敗しても構わないという雰囲気を大切にする。

イ 形にしようとしな

- ・ 絵や制作では、過程を楽しめるようにする。
- ・ 感触（感覚）遊び（水が気持ちいい・泡はぬるぬるするなど）を大切にする。

ウ 目で見てわかる援助

- ・ みんなに絵本を読む時、座らないで前に出てくる子も、画用紙で大きな卵を作り殻が割れたら本が出てくるようにすると、座って楽しみに待つようになる。
- ・ 誕生会や普段の保育の中でも、ペープサート（紙人形劇）を使うと集中してよく話を聞く。

<2学期の目標>

Ⅲ期(9月～10月) 集団:体を動かして遊ぶ楽しさを感じる

個人:先生や友達がすることに興味をもち、自分もやってみようとする

Ⅳ期(11月～12月) 集団:気の合う友達に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ

個人:身近な環境に目を向け、自分の好きな遊びを見付ける

- ・ 運動参観日（10月）に向けての遊びで、保護者に見てもらうことを意識して遊ぼうとすると気持ちが続かなくなる。
- ・ 3歳児用の砂場には、枠に高さがあるため、遊びが砂場の中に限られてしまう。

環境・援助の見直し

ア 遊びと行事をつなげる

- ・ 運動参観日で見てもらうことに重点を置くのではなく、幼児が好きな遊びをつなげて見てもらうようにする。普段の遊びと行事がつながるように考える。

イ 3歳児の砂場を変える

- ・ 3歳児用の砂場の周りを低くし、境界線をなくすことで砂場と園庭を自由に行き来ができるようにし、他の遊びとつながりやすくする。

<3学期> 目標

V期(1月～3月) 集団:いろいろな遊びに興味をもち、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ

個人:自分でできたことを喜び、やってみようとする

- ・ 生活発表会に向けての劇遊びでは、保護者や他のクラスの幼児に見てもらうことよりも、目の前の毎日の遊びを楽しもうとしていた。

環境・援助の見直し

ア 保護者も一緒に

- ・ 発表会前の参観日には、遊びを見せるだけでなく、保護者も一緒に遊びに入ってもらおう。
- ・ その日、その時を存分に楽しみながら、お話の世界を広げていく。

② カリキュラムの見直し

ア 見直しにあたってのポイント

- ・ 3歳児が安心して遊ぶためには、「3歳児の遊ぶスペースを作る」、「仕切りを作る」だけでなく、園全体の生活の流れが3歳児にとってどうなのかを考えなければいけない。

例えば、3歳児の保育室前の専用の空間で遊ぶ子が多かったが、そこがよくて遊んでいたのか、そこにしかいられなかったのか、3歳児の発達段階を理解することが必要である。

- ・ 4歳児の生活の流れに3歳児を当てはめようとするのではなく、3歳児を2歳児の育ちから見なければいけない。

イ 見直した箇所 (内容・環境構成)

○1学期 [Ⅰ期 (4月～5月) Ⅱ期 (6月～8月)]

	変更前	変更後
変更点	草花や小虫を見て、思ったことや感じたことを身体で表現したり、 <u>描いたり作ったりする</u>	草花や小虫を見て、思ったことや感じたことを身体で表現する
	描いたり作ったりする	<u>Ⅰ期からⅡ期に移動</u>
	クレパスや絵の具の <u>使い方を</u> 知る	クレパスや絵の具を使って自分の思いのまま描く クレパスとのりを使って遊ぶ
	4歳児、5歳児と遊ぶ機会をつくり、 <u>異年齢児と一緒に遊ぶ</u> 楽しさを味わえるようにする	<u>Ⅱ期からⅤ期へ移動</u> Ⅴ期に4歳児、5歳児と関わりながら、進級への憧れの気持ちが高まるよう支えていく
追加点	発達段階にあった遊びを存分に楽しめるように、3歳児だけのコーナー作りを工夫する	
	3歳児に合った生活リズムを考え、静と動も考慮しながら1日の生活の流れを組み立てる	

○2学期 [Ⅲ期 (9月～10月) Ⅳ期 (11月～12月)]

	変更前	変更後
変更点	いろいろな遊びを自分からやってみようとする	「 <u>自分のやりたい遊びを繰り返して楽しむ</u> 」
追加点	話をしたり、聞いたり遊んだりして、そばにいる友達との関わりを楽しむ	
	自分の思い通りにはならず、友達にも思いがあることを感じる	
	空き箱や廃材などの素材を使って遊ぶことを楽しむ	

○3学期 [Ⅴ期 (1月～3月)]

追加点	自分の知っている言葉でやり取りしたり、必要なことを伝えていこうとしたりする
	4歳児、5歳児への憧れを感じながら生活する

(3) 令和4年度のカリキュラムと今後の活用

令和4年度の3歳児カリキュラムは、令和3年度の実践から見直したものを実施した。

4歳児については、1学期（Ⅵ期・Ⅶ期）の「ねらい」と「内容」を2年保育児（新入児）と3年保育児（進級児）に分けて作成した。

令和4年度は、このカリキュラムに基づき保育を進め、日々の保育を進めながら見直しを行っていく。

3歳児の援助や環境構成を考えることで、4歳児、5歳児にとっても、発達段階に応じたものになっているか、改めて園全体の環境構成を見直すことにつながった。

今後、3歳児カリキュラムを他の市立幼稚園の4歳児、5歳児の保育や、3歳児親子ひろば「さんさんひろば」などにも広げ、活用していく。



2 幼児の心身の育ち

幼稚園教育要領の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の内容を、3歳児の心身の育ちを領域ごとに目標を定め、それが達成できているかどうかを一人ひとりについて評価した。

	令和3年度	令和4年度
3歳児	A：入園当初、A'：3学期末	
4歳児	B：2年保育児	C：進級児（3年保育児） D：新入児（2年保育児）

(1) 3歳児の入園当初と3学期末との比較

【AとA'の比較】

- ・ 遊びの中での主体性（自分から～する）を持ち、生活の中での身辺自立（「持ち物を所定の場所に片付けられる」「園のトイレで自分で排尿ができる」）がほとんどの幼児ができるようになった。
- ・ 人間関係、言葉、表現は、絡み合いながら成長している。
「先生に共感されたり認められたりすることをうれしく思う」、「先生と一緒に考えようとする」など、まずは、先生との信頼関係ができ、それが安心感となり幼稚園生活を楽しむようになった。
- ・ 「友達に親しみをもつ」、「友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感じる」、「友達に自分の思っていることを伝えようとする」が大きく伸びている。友達との関わりの中で「いれて」「いいよ」など、自分が言ったことに友達が返してくれるのがうれしい時期である。自分の世界から、友達と共に遊ぶ楽しさを感じ始め、友達に伝えたいという思いから、言葉の力が伸びた。
- ・ 「友達の話を知ろうとする」、「先生の仲介があれば友達に自分の考えを話せる」、「自分から友達に話をする」などが、ほとんどの幼児ができるようになった。
- ・ 更に、友達との関わりの中で、「思いが伝わらない葛藤を味わう」、「友達のうれしい気持ちや悲しい気持ちを知る」、「友達との感情の行き違いや自他の欲求の対立を感じる経験をする」など、少しずつ相手の思いに気付くようになっていく。
- ・ 環境（自然との関わり）では、身近な自然物や事象に興味をもち、遊びに取り入れたり、虫と触れ合ったり、花や野菜の成長を見たりすることで、「心を動かす」、「先生と一緒に毎日世話をする」が伸びている。生き物（アゲハ・オタマジャクシ・カブトムシ等）を保育室で育てることで、世話を喜んでするようになる。世話がしたくて、身支度を急ぐようになった。

考 察

幼児が色々な遊びが体験できるよう環境構成を工夫した。その環境に対して関わるのは幼児であり、それぞれが自分のペースで、遊びを広げていく。

もちろん、そこには、教師や友達の存在が大きく関わっている。幼児が心ゆくまで試したり満足するまで遊んだりできるよう、ゆったりとした雰囲気や時間配分を心掛け、また、失敗しても構わない環境や声掛けをし、自分であろうとする気持ちを支えてきた。それが一人一人の成長につながったと考えられる。

(2) 3歳児保育（進級児）と2年保育（新入児）との比較（令和4年度1学期）

【CとDの比較】

<同じ空間で遊ぶ>

- ・ 進級児は、昨年度の4歳児、5歳児の姿を思い出してしようとする。
- ・ 新入児は、周りの友達のしている遊びを次々しようとする。
- ・ 昨年度の4歳児、5歳児がしていた鬼ごっこの「鬼決め」を進級児がしようとする。
- ・ 新入児は進級児に教えてもらいながら一緒に入る。鬼を決めることはできなかったが、新入児は進級児と同じ空間でいることが楽しい様子である。

<ルールを守る>

- ・ 進級児は、おもちゃを順番交代や一緒に使える。遊びや片付けなどで、ルールの意味が分かり、守ろうとする気持ちが感じられる。
- ・ 新入児は、したいことが出てきて、朝、保育室に入る前に遊びだす、片付けをしない。納得するまで遊ぼうとするなど、3歳児と似た姿が見られる。
- ・ 新入児が靴箱に靴を入れるのを忘れており、教師が声を掛けてもしようとしない。それを見ていて、進級児がさりげなく入れていた。

<協同する>

- ・ 進級児が、新入児に持つ位置や持ち方を教えながら、4人で1台の机を運ぶことができた。

<誘う>

- ・ 好きな遊びからなかなか戻ってこない新入児に進級児が呼び掛ける。呼

びかけられてもすぐには入ってこない新入児もいる。進級児は、みんなで遊ぶと楽しいという経験があり、期待をもって部屋に入ってくる。

<周りが見える>

- ・ 先生が示したものを「見えない」とみんなの前に立って見に行こうとする新入児に対し、進級児は「座らないとみんなが見えないよ」と言う。

<見本となる>

- ・ 教師が指示したことに対して、進級児がしているのを見て、新入児がしようとするため、教師が繰り返し言わなくてもできる。

<自分で考える>

- ・ オタマジャクシに興味をもち、何を食べるのか話題になった次の日、進級児2名が家で調べてきて、自分たちで考えて餌を準備しようとしていた。また、進級児はザリガニ釣りの道具も自分から持って来て遊び始める。新入児は、それを見て、持ってくるようになる。

考察

令和4年6月10日（金） 園内研究会

講師：びわこ学院大学 中井 清津子 教授（※） より

- ・ 進級児は、人間関係ができており、つながりが強いため、友達の話の聞いたりお互いに響いたりする。
- ・ 昨年度、友達と遊ぶことを楽しんでいた。今年度、そこから1歩踏み込んだ学びの段階が違ってきている。
- ・ 葛藤も進級児同士ではあまりないが、進級児と新入児が葛藤経験をしている姿がある。自分の思いがあり、それを友達に発信しているからこそその姿である。
- ・ 進級児は、昨年度は自分のことで精いっぱいだったのが、去年を経験していることで一緒に喜ぶということもでき始めている。

※ 中井 清津子 教授 主なプロフィール

滋賀大学教育学部附属幼稚園副園長 多くの大学で非常勤講師を務める

平成26年度より 相愛大学人間発達学部子ども発達学科 教授

令和2年度 芦屋市就学前研修会で講師を務める

テーマ 「3歳児の発達を支える環境や援助」

令和2年度より 岩園幼稚園 園内研究会 公開研究会等で、講師として指導する

令和4年度より びわこ学院大学 教育福祉学部 教授

(3) 令和3年度の4歳児と令和4年度の新入4歳児（2年保育児）との比較

【BとDの比較】

対象となる幼児、また評価する教師が違うこともあり、誤差はあるが、そのなかでも、「友達関係」「道徳性」「挨拶」の項目では、令和4年度の新入4歳児が令和3年度の4歳児より成長が見られる。

同じクラスに生活の見本となる友達、真似ができる友達の存在により、道徳性や挨拶などは大きく伸びると考えられる。友達関係も、関係ができている中に入る安心感、心地よさがあり、楽しそうに遊んでいると入りやすくなる。

同い年の子どもと生活することが、子どもにとって伸びようとする力を引き出すことにつながる。3歳児保育を受けた4歳児がいることで、新4歳の発達も助長されると考えられる。

(4) 4歳児、5歳児の育ちへの影響

〈事例1〉3歳児に見られると張り切る4歳児

- ・ 運動会のリズム表現、劇遊びなど、保護者に見てもらう前に子ども同士で見せ合う場がある。
- ・ 4歳児の遊びを3歳児が見に来ると、4歳児がとても張り切って見せようとする。

〈事例2〉3歳児には優しく、5歳児には甘える4歳児

- ・ 4歳児は、3歳児には優しくお世話をしようとする。3歳児が足を洗い拭いた雑巾を新しい雑巾入れのかごに入れたところ、「そこじゃないよ」と言って取り出して入れなおす。
- ・ 好きな遊びの中でも「やってあげようか」、「貸してあげようか」と声を掛け、自分の道具を使われても使い終わるのを待っている。一方で、5歳児には、自分の使いたい遊具に対して「それを貸してほしいな」と甘えた様子で頼む姿が見られる。

〈事例3〉3歳児と4歳児のお世話をする5歳児

- ・ 5歳児が、初めての体位測定をする3歳児、4歳児の手伝いをする。衣服の着脱やたたみ方、身長計、体重計の乗り方などを教えたり、その後、一緒に絵本を見たりする。4歳児には、様子を見て、出来そうなところは手を出さない。3歳児は、してもらえんと思っているので丁寧にしてあげる。

考 察

4歳児にとって、3歳児の存在が意欲につながっている。また、3歳児がいることで、自分たちは、「お姉さん、お兄さん」と思って生活している。優しく教えてあげたり、お世話をしあげたりすることができる3歳児と、憧れであり、甘えられる存在の5歳児と両方の存在がいることで、豊かな経験ができる。

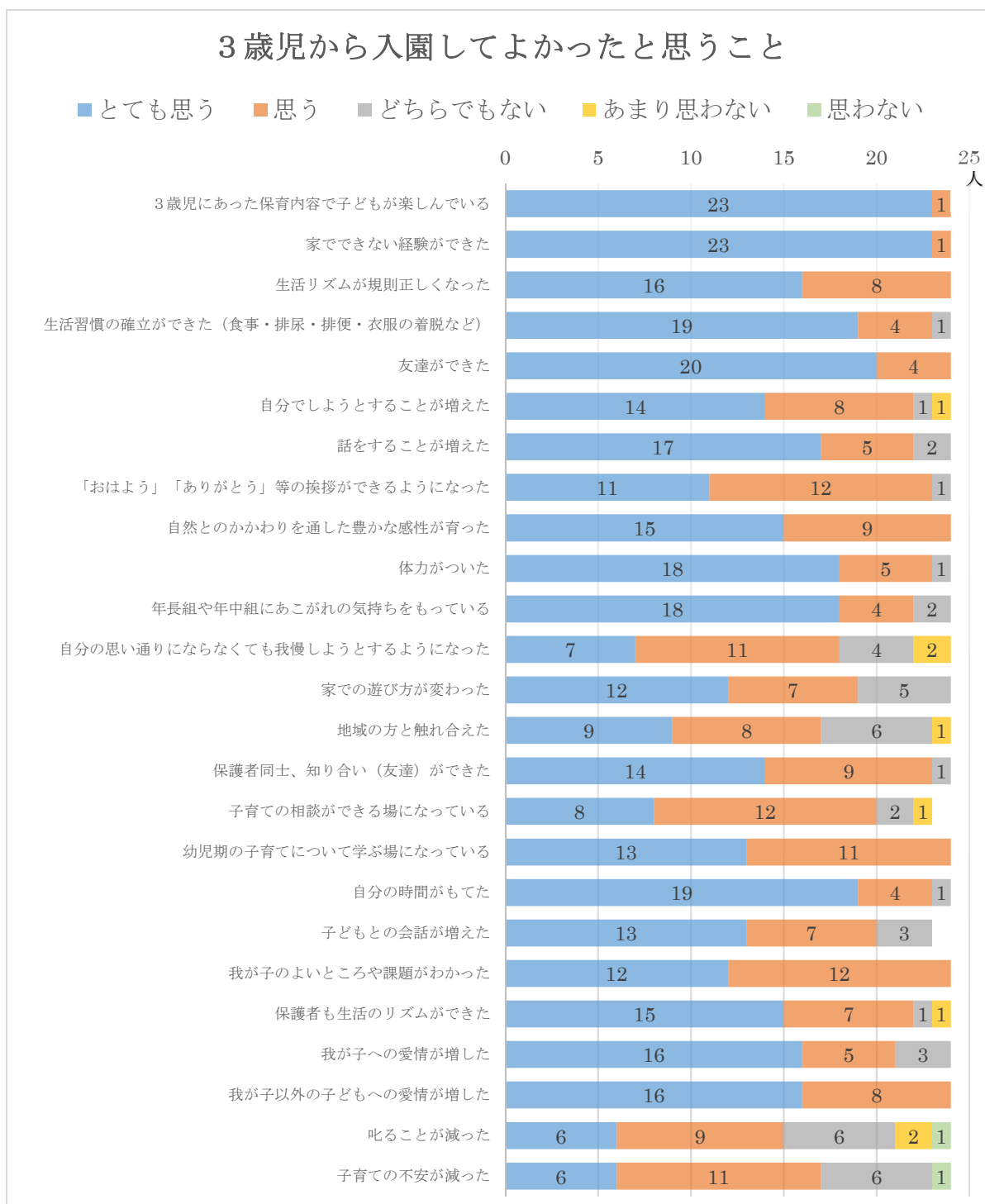
5歳児は、相手によって、対応を無意識に変えている。3歳児がいることで、5歳の経験が「年下の子どもに思いやりをもってかかわる」ことに加え、「相手に合わせて対応や手伝いの仕方を変える」という多様性への対応が身につく機会となっている。



3 保護者アンケートの結果

(1) 令和3年度末アンケートより

アンケート結果により、子どもにとっても、保護者にとっても3歳児保育について、一定の評価が得られた。



自由記述

① 子どもについて、3歳児から入園してよかったと思うこと

- ・ 同年代の友達ができた。
- ・ 同学年の友達と交流ができています。
- ・ 友達と仲良く遊べるようになった。
- ・ 男女関係なく、色々な友達と接することができています。
- ・ 先生やお友達との関わりを通して、社会性が身についた。
- ・ 3歳の早いうちから、様々な人との交流をもち、刺激を受け、色々なことを考えられる機会が持てた。
- ・ 友達が単なる友達ではなく、絆を深めた仲間となれたことは、様々な状況をみんなで乗り越えられるのだと早い段階で気付けたと思う。
- ・ 人との関わりや外出の機会が減っていたので、入園させて良かった。
- ・ 社会とのつながりがもてた。(家以外の場所で母親がいなくても安心して楽しく過ごすことができるようになった)
- ・ 早くに集団生活を体験でき、色々な友達と接することで学びが増えた。
- ・ 集団生活で、ルールを守ることの大切さを学び、思いやりの気持ちをもつことができた。
- ・ 自分はよくても相手が嫌なことがあることを本人なりに考えようとしていて、人を思いやる気持ちが幼いながらも育まれていることを感じる。
- ・ 早くから友達との関わりがもててよかった。
- ・ 今まで、同じ学年の子と遊ぶ機会が少なく、公園とかに他のお友達がいると嫌がって行こうとしなかったが、今では関わり方がわかってきたのか、嫌がることなく行けるようになった。
- ・ 人見知りがなくなり、だれとでも少しずつ話せるようになった。
- ・ 言葉が増えた。
- ・ 話せるようになった。
- ・ 色々なことに興味をもつようになった。
- ・ 様々な体験ができた。
- ・ 生活面での自立が見られる。
- ・ 自立心が芽生えた。
- ・ 自分の身の周りのこと（トイレ等）を進んでできるようになり、親の不安感がなくなった。
- ・ 新しい環境での順応力がついた。
- ・ しっかりしてきて、我慢できるようになった。
- ・ 上の学年の子どもの真似をするなど、吸収していることを感じる。
- ・ トイレトレーニングがスムーズにできた。

- ・生活リズムができて、早寝早起きができるようになった。
- ・弟に優しくできるようになった。
- ・幼稚園のことを、家で嬉しそうに話したり歌ったりする。
- ・家でできない経験ができた。
- ・行事や誕生日会などで子どもがわくわく楽しんでいる。
- ・季節の行事、伝統行事など（おもちつき・プール遊びなど）ができた。
- ・規則正しい生活になり、テレビを見る時間が減った。
- ・自然との関わりを通して豊かな感性が育った。

② 3歳から入園して困ったこと

- ・家では甘えて、自分でせず親にやらせようとする。
- ・体力がないからか登園時ぐずることがあった。
- ・1学期、朝起こすのが大変だった。
- ・朝、支度がなかなかできない。
- ・言葉が遅く友達を傷つけてしまった。
- ・入園当初は、言葉でのコミュニケーションがまだ上手にとれないためか、友達に押された、叩かれたなど話していた。
- ・トイレがうまくできず下着を汚してきた。
- ・喧嘩をしたとき、相手の親に気を遣う。

③ 保護者の立場でよかったこと

- ・先生方から、年齢に合った声掛けや接し方が学べた。
- ・我が子のよいところや課題がわかった。
- ・子どもが毎日生き生きと嬉しそうに通う姿がうれしい。
- ・離れることで親も子も余裕が生まれた。
- ・下の子との時間が持てて助かった。
- ・他の保護者の方と話せて気分転換になる。
- ・自分の時間が持ててよかった。

④ 3歳児保育についての感想

- ・伸び伸びとした遊びを中心とした保育がよかった。3学期の劇遊びでは頑張りが伝わってきた。これからも丁寧な指導が継続されるとよいと思う。
- ・異年齢との関わりで楽しさや学びがたくさんあった。
- ・幼稚園の遊びを家でやるなど、コミュニケーションが増えた。3学期には友達の話も増え、同じ年齢の友達ができて本当に良かった。本人も親も成長できた1年だった。早く全園での3歳児保育が始まるように願っている。

- ・ たくさんの経験ができ、親も子も成長できた。今後も3歳児保育を継続させてほしい。
- ・ 良い点として1年の感想を挙げます。「生活リズムが整うこと」、「子ども同士のつながりが生まれること」、「他の保護者の方と話せて気分転換になること」、「先生方から見えてこなかった我が子の特徴を教えられたこと」、「先生方から子どもの年齢に合った声掛けや接し方を教えてもらったこと、先生方の接し方から見て学べたこと」
- ・ 3歳からの保育に入ることができて本当によかった。色々な体験をして、世界が広がったみたいに感じる。お友達とも話ができるようになり、弟に優しくしてくれる姿を見るとよかったなと思う。また下の子との時間がゆっくり持てて助かった。ぜひ、芦屋のすべての幼稚園で3歳児保育をしてください。
- ・ 小さい子同士遊んでいるのがただただ可愛い。成長が早いと思う。
- ・ 先生や友達を見て「自分も」と本人が取り組んでくれていたので、親としてマイナスな気持ちが少なくなったと思う。
- ・ たくさんの気付き、楽しみを与えてもらった。
- ・ 何より子どもがとても楽しそうで、日々成長がより感じられるようになってよかった。先生方もとてもよくみてくださり、とても感謝している。
- ・ 言葉を使ったコミュニケーションもとれるようになった。同年代の友達や先生と一緒に遊んだり、規則を守った生活を送ることで、成長にもよい影響がたくさんあると感じた。子どもが毎日生き生きと園に通う姿がうれしい。
- ・ 言葉の数がとても増えた。歌や手遊びもとてもたくさん覚えられるようになった。
- ・ 早くから集団生活を経験できてよかった。
- ・ 初めは3歳なのに大丈夫かと思っていたが、3歳でも立派な社会の一員だと感じるようになった。
- ・ 3歳から家庭ではできない経験をすることで、たくさんの感情が芽生えてよかった。
- ・ 3歳児の幼稚園教育は、子どもにとっても親にとってもプラスになることが多い。
- ・ 親にたくさんの楽しみ、気付きを与えてくれた。
- ・ 親子ともども多くの学びがあった。そして、先生たちのお陰で親子ともども成長できた。
- ・ 3歳から入園できて大変よかった。
- ・ 3歳児保育は、家庭だけでは与えられないものがたくさんあり、実際通ってみて、この1年間の成長はとてもありがたいと感じた。

4 市内の教育・保育施設との連携

3歳児保育を行うことで、3歳児の発達に適した環境構成や援助などについて、市内のすべての就学前教育・保育施設の教諭、保育教諭、保育士と共に、学び合う機会が持てた。

また、3歳児の環境を見直すことで、4歳児、5歳児に適した環境についても考える機会となり、季節や発達に応じて、環境の見直しを細やかに行うようになった。

令和3年度 3歳児に係る研究会・研修会・報告会

日時	テーマ・内容・講師	参加者・人数
『3歳児参観』 5月14日・18日・ 19日・24日・ 28日・31日	「3歳児の幼児理解と適した環境、援助について」 3歳児クラスの参観 幼児の姿の読み取りや環境、援助について紙面にて提出	市立幼稚園 合計10名 (緊急事態宣言中のため、1日1人～2人に絞って参観)
『公開研究会』 5月26日 9:15～16:45	「豊かに感じ、たくましく育ち合う幼児をめざして」 ～「トキメキ」「ヒラメキ」を感じる環境について考える～ 公開保育 3歳児 みかん組 9:15～10:15 研究協議 指導助言 15:15～16:45 講師 相愛大学 教授 中井 清津子 氏	市立幼稚園 8名 (緊急事態宣言中のため、参加人数をしばって開催)
『3歳児研修会』 7月16日 15:00～16:45	「こころとからだを弾ませて」 講話・実技 ～3歳児の発達と音楽遊びについて～ 講師 清川 利恵子 (リトミック講師)	市立幼稚園 12名 市立認定こども園・保育所 3名 私立幼稚園・認定こども園・保育園 6名 合計 21名
『保育参観・懇談』 11月4日・8日・ 12日	「3歳児の学びと適した環境や援助を考える」 3歳児クラスの参観 その後園長に質疑応答 幼児の学びや環境、援助について紙面にて提出	市立認定こども園 7名 市立保育所 5名 合計 12名
『3歳児報告会』 3月17日 15:00～16:45	実践報告 『3歳児保育の取組より』 ～3歳児から見えてきた、幼児教育で大切にしたいこと～ 報告者 芦屋市立岩園幼稚園 中塚 景子 園長 3歳児みかん組 担任 杉谷 奈央子 教諭	教育委員会 10名 市立幼稚園 25名 市立認定こども園 5名 市立保育所 3名 合計 43名

5 特別支援教育の取組

市立幼稚園では、特別な支援を要する幼児に対して、それぞれの状況に応じて、加配教諭・支援員・看護師を配置している。クラスの中で、一人ひとりに応じた支援を受けながら、一緒に保育を受けることで、大きな成長が見られている。

岩園幼稚園においても、3歳からの特別支援教育が始まったことで、これまで培ってきたインクルーシブ教育の理念を基に、次のようなことを大切に取り組んだ。

- ・ 3歳から集団生活の中に入ることで、その子にとっての成長が助長される。
- ・ 特別な支援を要する子も、3歳から地域の幼稚園に通うことで、地域の友達ができ、地域で育っていく。
- ・ 周りの幼児も、3歳から支援を要する幼児と共に育ち合うことができる。
3歳児は、友達のことを肌感覚でとらえている。また、周りの先生を見て関わり方を学び、同じように関わろうとする。
- ・ 保護者が、子どもの成長や課題について早くから知ることができ、その子に適した接し方について学べる。

6 3歳児保育の試験的实施を通して

3歳児保育の試験的实施により、「3歳児」についての幼児理解が深まった。

3歳児は、自分だけの世界から、少しずつ周りの世界に興味・関心が広がり、人の関わりが生まれ、探求心や意欲が芽生えていく。そのため、できるようになることを急いだり、教えたりするのではなく、それぞれの思いに添って、自分が納得するまで繰り返し遊びを楽しめるような環境や援助が大切であることがわかった。

このような発達にふさわしい保育を受けることにより、幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、これからの世の中を生きていくために大切だとされる、好奇心や意欲、思いやり、粘り強さなど「非認知能力」が育っていくと考えられる。

岩園幼稚園では、そのための環境構成や援助について、日々の保育の中で、幼児の姿から丁寧に見直し、考え、研究を進めていった。それは、3歳児だけでなく、4歳児、5歳児にとってのふさわしい環境構成の見直しにつながり、他の市立幼稚園への発信へとつながった。

コロナ禍でなかなか研究会や参観ができないなか、市立幼稚園、認定こども園、保育所が、日を分けて参観し、懇談や書面で意見交流を行った。意見では、「自分で遊びを選んだり楽しんだりできる環境があり、意欲や主体性につながっている」、「ゆったりとした時間の流れの中で思う存分楽しんでいる」、「毎日の保育がつながっている」など参加した教員からも多くの気付きがあがってきた。

また、3歳児研修会は、私立の幼稚園、認定こども園、保育園も参加し、同じテーマを一緒に学ぶことができた。

市立幼稚園に求められる役割の一つとして、市内の幼児教育のセンター的役割があげられる。岩園幼稚園の3歳児保育の実践で得られた知見を、市内すべての就学前教育・保育施設に向けて発信し、これまで以上に質の高い教育、保育の提供ができるよう、市立幼稚園が幼児教育の中核となり、けん引していかなければならないと認識している。